



特
遠 13
2209
98

繪本豊臣勲功紀四編卷之五

目錄

山崎長門守刀祢坂戦死

属 龍貞生害

義景自殺信長越前平治

属 久攻自害

繪本豊臣勲功紀四編卷之五

長政最期浅井诸士勇戦

属 昭坂降参

藤吉郎含情再興京極家

属 黑田使節



繪本豊臣勲功記四編卷之五

江戸 櫻澤堂山 編輯



山崎長門守刀林坂戦死属龍興最期

荒食を退ふ時ハその疾率矢の速く仇を逐ふ時ハその速きこと此の像一と謂里今茲不信長が義系を逐ふ勢ハ宛然矢の疾ふ似たり然バ朝倉義系ハ月又系トく退去るせりが柳ヶ瀬村小来りし頃ハ漸く人馬勞き一うを要時出れ小く休息を後馳せ侍合を遠時山崎長門守大將義景の首日出今更重きをも詮ふけれと遠道江州出馬あり一ハ津運の傾く随相する處一小治己不敷賀小太いくの傍く蘇我東江といふとも所用ひられたる是那をたき只今雅義の退路不款兵大勢已近くと候不追附以侍ハ容易

く退去ハ緒す。深く一戦ヲ。戦死せんこと武士の幸意さへなり
 むがう大将ふへ少くも争く退道也。小居さふ踏止り防戦して
 君の爲に甚く。戦死せんその際。小居時刻をうつ。まうはくも
 急死哉。前へ退入す。数代後居の所城ふく。赤心寧く腹めこれ
 よ。決ても適きぬ時節なる。小幸城退さるごとく。後の笑ひ成東
 させぬふ。赤練めまうさるも是か。けり。惜や今生の赤練別ぞ
 赤蓮の末と云まうし。むが。是れを多く扶持せし。老甲潘代
 此長家といども。赤蓮大車の期ふら。君の事よりおのが身此
 透る。場ふ。赤蓮踏て。恩成忘。忠を思。情。人の為。あ。孫
 ども。後。論。の。倫。輩。成。の。と。懇。情。厚。く。せ。し。色。無。益。の。もの。を。扶。持
 する也。急。小。今。此。危。急。に。及。ぶ。といども。一。門。も。その。甲。斐。に。こと。成

し。思。た。あ。そ。を。さ。る。と。と。居。兵。庫。高。橋。基。之。序。考。を。勝。小。勝
 後。龍。興。に。合。稱。して。石。坂。の。程。成。調。了。至。時。刻。う。つ。ば。ま。う
 せん。速く。後。を。せ。ぬ。と。戦。死。の。う。と。馬。成。か。む。け。自。分。の。道。の
 正。中。小。退。去。る。款。の。今。ふ。も。や。と。馬。を。走。く。ぞ。居。る。今。山。崎。が。一
 言。小。激。怒。せ。し。是。踏。止。り。戦。ひ。を。む。者。も。多。う。り。ける。赤。居。考。橋。の。赤。面
 して。主。君。小。引。流。ひ。流。れ。ぬ。月。形。樹。間。を。穿。つ。河。を。是。も。款。也
 懐。疑。馬。也。胸。裏。う。せ。く。奔。り。けり。形。て。後。田。の。大。軍。ハ。そ。ま。ふ。ん。と。退
 くる。後。小。え。や。刀。孫。坂。小。馳。舟。たり。信。長。さ。う。つ。諸。勢。を。属。す。進
 め。くと。赤。中。新。あ。ま。若。田。又。左。衛。門。倭。正。先。小。馬。を。蹴。ら。せ。て。そ。や。朝。倉
 の。後。陣。小。退。附。を。二。三。小。攻。附。た。れ。朝。倉。勢。ハ。右。衛。門。左。衛。門。崩。立
 たる。その。ところ。へ。山。崎。長。門。右。衛。門。同。嫡。子。小。次。弟。右。衛。門。同。弟。七。弟。九

今分林改新
 赤蓮より西
 かの方に當
 りては川の
 小源より
 一里許り
 赤蓮の
 勢

勝つ有延同新左衛門右衛門重為既小戦死と覚悟して後陣へと引返
しつるを是小同志の面く和由三郎左衛門義成同清左衛門義保新
副将監右廣神波九郎右衛門右久堅田左衛門書右治同七郎左衛門右
房山内孫六左衛門三和勝六郎左衛門清水三郎右衛門岩崎右衛門末
田忠左衛門増井五郎左衛門田尻十郎左衛門高尾又七郎西備左衛門
兵五百餘人刀楯坂の上小立塞り退る敵を討斃たり。蔵田方の先隊
虎嘯をうし一礮小坂河経登る。先一妻小山崎父子正先小馳下り
をばく敵成るるをもせむ。突之く突落し必死の繼先鋒に拈く先
小進三蔵田の軍勢たちまち坂より撲墜され手をあふ最上最多
けきバ新左衛門は久政なる小山崎父子が勢ハ崩山遮海の如くあて
合を期と括れぐる也。蔵田勢極く慌れども。坂河の險をよる也。

禁幕のうへに逃返さる。先隊の大將前田又右衛門依り同義助其外の諸
士是代刀をく射ての逃敵あまらず。敵ハ退歩の疲甚者自方小比
まれば十分ありまをりの地此利を得たをとく何程の事ある
處死ぞ吾倭小續と斃せくと彼年次懋す。勇を振ふて攻よる
前田又右衛門利家思慮代廻らし鉄炮の巻二百人を正先に立て進ん
だり。此時朝倉の勇士和由三郎副将神波清水山内若山崎父子小將
隊伍とまざるその所へ前田か進めし鉄炮隊部二百余挺の筒先
そ依り雷雨の如く札敷せしる。朝倉勢ハ面を向ふ。たより小新を
利家成政よ六突登せと叫ぶる。兩將もろろ先小進之坂の絶
頂小馬成直る。副将副将監右廣を前田利家刃よりも一聲
叫で突斃り只一遺に將監成馬より下へ突て墜し首撥斬く

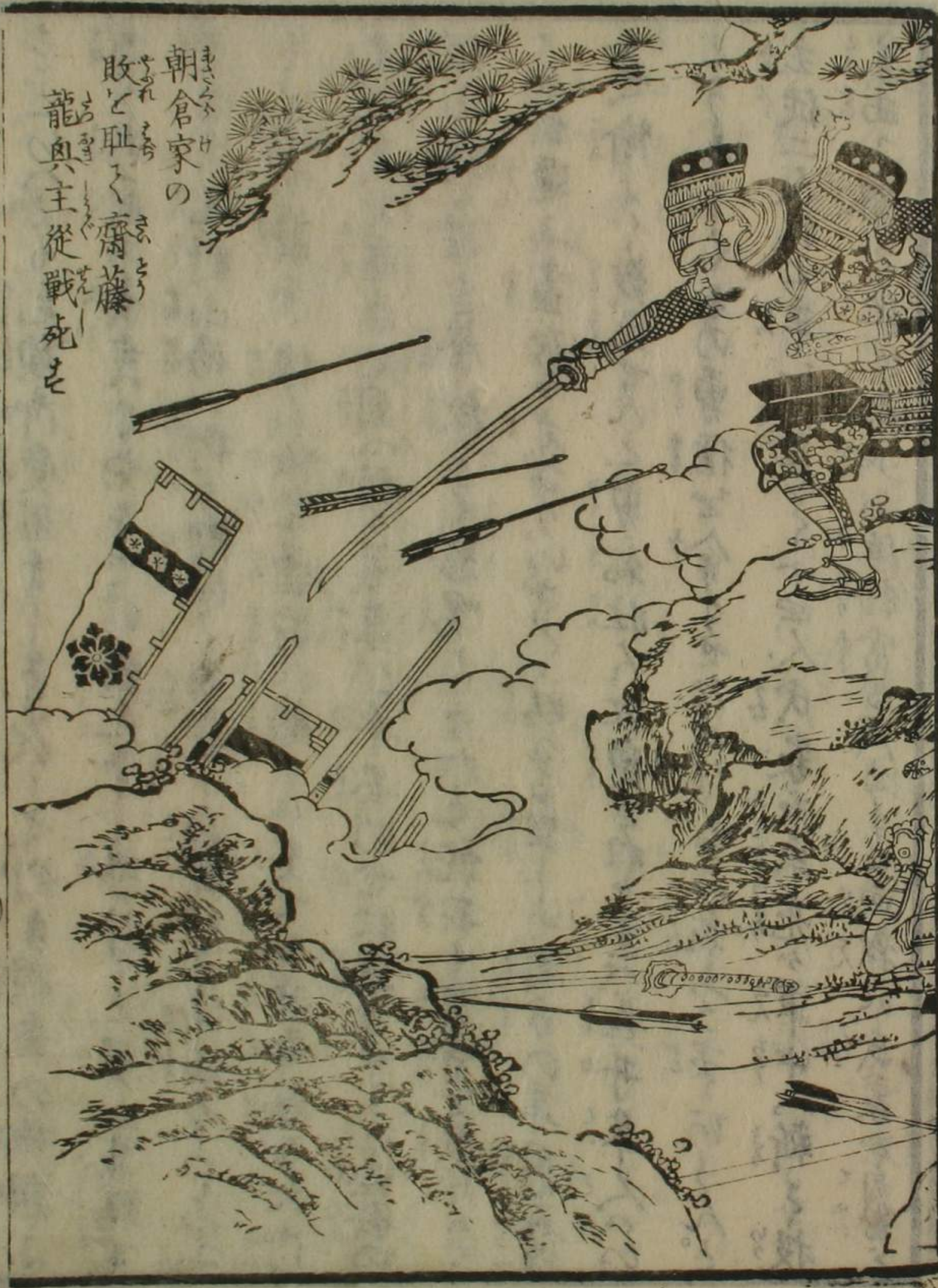


高く警揚。追撃の一番敵と呼ぶべき。依り成政は伏見にて。おろす
 之のと逃蕘り。和田三布衣は橋つ成ら。此圖小宗て西將ハ棚起斬伏
 強り。廣場へ馳登。獅横虎怒して戦ひ。これを朝倉勢ハ大才也
 山崎父子も渾身血鏝にして喰止たり。本下。柴田。依之間。剛智
 丹羽。蜂屋。氏家。福系。蒲生。河内。水田の門。次。大。小。推。進。来。る。本
 下。若。弟。秀。右。ハ。遠。隊。の。先。を。延。たり。しか。新。の。如。く。陳。遮。て。ハ。義。系
 之。事。小。引。退。り。防。戦。の。准。備。を。め。め。と。容易。政。投。こ。難。か。う。入。述
 に。追。撃。して。防。戦。の。准。備。を。め。め。と。山。崎。依。が。防。法。を。和。田。依。に
 信。せ。お。こ。自。隊。の。士。士。隊。部。合。せ。ら。を。破。つ。と。馳。通。り。花。が。如。く。小
 退。り。る。氏。家。左。衛。亮。是。成。見。し。同。ト。く。自。營。を。一。つ。小。下。本。下。の
 後。小。續。け。り。背。場。に。山。崎。種。波。依。百。騎。之。騎。小。下。る。ま。も。一。寸

後ハ退り。めめと。威多斬。小。私。殺。し。る。が。お。の。く。後。石。此。方。を。ね
 を。お。り。ま。す。小。引。戦。して。一。人。も。の。ら。ず。戦。死。し。け。り。朝。倉。義。系。暗
 弱。日。進。も。先。祖。累。代。の。名。家。を。も。忘。其。風。是。す。也。連。續。し。先
 急。に。進。ま。す。主。隊。助。る。と。新。の。如。く。義。系。柳。の。道。成。心。に。容易
 威。亡。さ。り。ま。す。小。引。呼。惜。む。ま。り。し。折。て。山。崎。依。の。戦。前
 成。士。も。刀。禰。板。す。く。戦。死。し。た。れ。を。城。回。勢。も。夜。中。に。遠。路。に
 勞。を。姑。く。後。に。休。息。して。再。び。蹟。を。追。進。たり。本。下。若。弟。秀。右
 ハ。既。小。引。退。を。強。引。く。勢。ひ。た。け。く。進。む。本。下。朝。倉。孫。之。弟。系。健
 同。云。依。留。同。掃。部。助。同。秀。世。弟。河。合。安。菟。等。完。見。戦。前。与。伊。左。九
 弟。之。清。小。泉。四。弟。左。衛。長。秀。大。宗。坊。依。提。く。返。し。本。下。兵。小。探。合
 ひ。石。愛。丸。死。して。戦。ふ。たり。秀。右。ハ。只。序。時。も。先。ま。ま。ん。と。お。り。入。傑

勢ありて元来その身にのむ時ハ水火の中も死破る通らざれば
 ぬ別勇なれば自軍の諸士にげまじし統率。單騎急に指揮を傳
 へし。河内へ正魁小姓たる。加茂福徳。序桐。尾一騎。當千。河内守
 我者らと論を合さ中に死す。後傷市松。正則。河合。安流。志保。次
 段。捉を是にふとを。加茂虎之助。清正。の宅見。我前。志保。段。捉たり
 是を志保の叔とて。序。相。助。尾。尾。中。村。孫。平。次。樽。酒。賀。又
 子。倭。骨。成。務。小。して。我。ふ。は。七。朝。倉。方。の。名。達。る。勇。士。員。を。盡。し
 て。我。死。せり。然るも。氏。家。丸。系。亮。ハ。本。下。に。續。く。馳。たり。たる。が。よ。う
 く。只。今。追。附。し。此。戦。相。を。見。る。も。猶。勝。せ。ざ。と。整。て。蒐。る。遠
 以。濃。羽。前。の。國。守。武。友。治。部。大。輔。純。興。ハ。二。百。年。前。より。朝。倉。家
 以。身。を。倚。し。が。義。系。殊。小。是。を。愛。し。葉。花。秋。葉。に。月。日。送。り。り。

然るも。遠。遭。義。系。が。退。去。に。及。び。く。柳。ヶ。瀬。へ。着。る。响。山。傍。長。門。守
 右。家。主人。を。別。係。中。へ。召。し。益。の。者。成。原。く。扶。持。す。危。急
 の。窮。小。及。ん。ふ。我。身。の。上。に。迷。惑。して。主。君。の。恩。澤。を。顧。ぶ。る
 と。誹。謗。せ。ら。ま。し。一。言。の。龍。興。が。約。に。訂。さ。し。て。増。て。死。後。に
 長。井。隼。人。ハ。志。意。に。傷。も。難。断。を。り。洞。を。吞。信。在。たり。しが。義
 系。の。退。去。小。誘。引。く。刀。称。坂。ま。で。ハ。退。く。ま。ど。も。諸。士。會。借。に。渡。る。我
 死。し。たる。後。人。も。ふ。つ。け。長。井。隼。人。堪。り。も。龍。興。の。糧。小。轉。と
 捉。着。あ。ま。齋。を。せ。人。の。一。代。名。の。末。代。作。吾。儂。主。従。ハ。本。國。義。濃。を
 退。去。せ。り。り。遠。那。に。漂。流。して。他人。の。扶。持。を。棄。る。傳。奉。び。家。名
 を。與。え。ん。た。め。あり。熟。く。結。果。を。慮。る。小。所。給。再。興。の。力。ハ。堪。り。切
 て。長。勇。れ。名。あり。とも。殘。して。死。後。の。恥。辱。を。雪。ぐ。人。教。度。傳。言。棄



朝倉家の
敗と耻く齋藤
龍貞主従戦死を

豊臣記四編卷之五

〇
七



豊臣記四編卷之五

〇
七

たといとも。乞頭許受用す。まきびて。別々朝倉の威期不
過り。忠義の武士へも。やまを以て。幾死か。果らんと。実ふ長傷不
見あり。先刻山崎が柳ヶ瀬に。棄せし河成。いふ所取らざる。小
尾の狗も裂き。像く。恆念骨髓に徹し。変ても運命拙り。所
身の爰を。還き他國へ。移とも。暮び平安の世に。遇ぐ。と。恆念の
涙。小血を。灌ぎ。聲放ち。と。悲嘆し。くれを。龍興も。目宵を。敵に。く
く。武運。不盡。なる。身あり。いさく。晴る。軍して。自方の。耳目。を。驚
く。愉よく。幾死せん。と。勇氣。壯んに。重され。ま。長井。隼人。の。い
とう。ま。く。その。勇猛。を。合。ま。せ。た。なり。る。小。熱。る。事。あり。んと。
主従。二人。に。士。卒。を。合。せ。く。十四。人。氏。家。た。系。亮。が。軍。中。へ。斬。り。投
木。西。小。柳。に。弛。せ。南。小。小。佐。將。當。る。城。より。と。血。戦。は。氏。家。が。自。勝。二

百。余。人。女。將。を。從。十。四。人。を。圍。く。と。投。擲。困。を。刺。を。ま。す。と。ぞ。攻。た。り
る。傑。氣。の。龍。興。方。領。を。得。り。の。軍。色。に。殺。す。所。の。病。と。孫。も。せ。ん。
勇。を。振。て。戦。ひ。つ。る。が。從。卒。こ。と。く。戦。死。し。て。主。従。二。人。と。り。し。る。は。
長。井。隼。人。も。た。也。是。ま。で。と。龍。興。に。自。勝。を。初。む。こ。の。後。こ。り。と。馬。よ
り。逃。却。り。上。帯。解。く。せ。し。る。も。私。軍。の。中。小。切。後。去。れ。ば。隼。人。の
る。く。介。借。り。その。身。八。割。中。小。弛。投。て。愉。し。み。小。戦。死。し。つ。る。に
日。根。野。彼。中。同。孫。次。右。衛。門。見。守。の。木。下。が。隊。小。属。し。ける。が。殺。系。に。小
と。逃。去。の。中。に。定。く。龍。興。も。奔。一。に。お。こ。る。る。人。此。戦。中。成。を。事。と
還。去。ま。し。ま。せ。し。や。い。か。ふ。も。り。七。值。遇。主。従。を。討。ひ。返。ら。ん。もの。と。心。決
若。し。めて。河。り。つ。る。が。先。刻。秀。右。正。魁。へ。近。抗。たり。し。成。後。便。小。切。殺。せ
あ。つ。て。お。ひ。來。たる。木。下。將。の。最。先。より。河。合。宅。見。が。軍。と。火。水。に。る。り



豊臣記 田原巻之五

九



日根野の兄弟
龍兵衛の
冷體は
値偶々
悲哭す

豊臣記 田原巻之五

九

て搦合。氏家の後、徳興が十四人と棲がりたる也。日根野兄弟と
 八守町など踏躰してありたるを。神々々ぬ目の毛を知りて。たす
 其る戦死して。これ一戦の体なれば。自軍の諸士候そ色ぐ。提
 たる首級も少く。搦け一所ふきんと持集る。其中に氏家の郎党宮
 川佃馬といふ者。徳興をびふ。軍人が首を持来る。氏家も原の敵
 着家の旗本たる也。二人の面神を見知た色。たす亮是れに
 徳興主従に遠ひたる色。今更哀の事と思ひ。木下小斯と告げる
 以て日根野兄弟此由を所と告ぐ。狂札の如く愕然とれを忘きて
 馳来り。徳興主従が首を見する。了得の兄弟。熱湯の縁に涸死
 流し。たちまち五体と地ふさけうち。聲を放ちて嘆きたるふ。徳興
 りたる兵士輩も兄弟が心中を察し。禮の袖をさわりける。

義系自教信長被前平治属久政自害

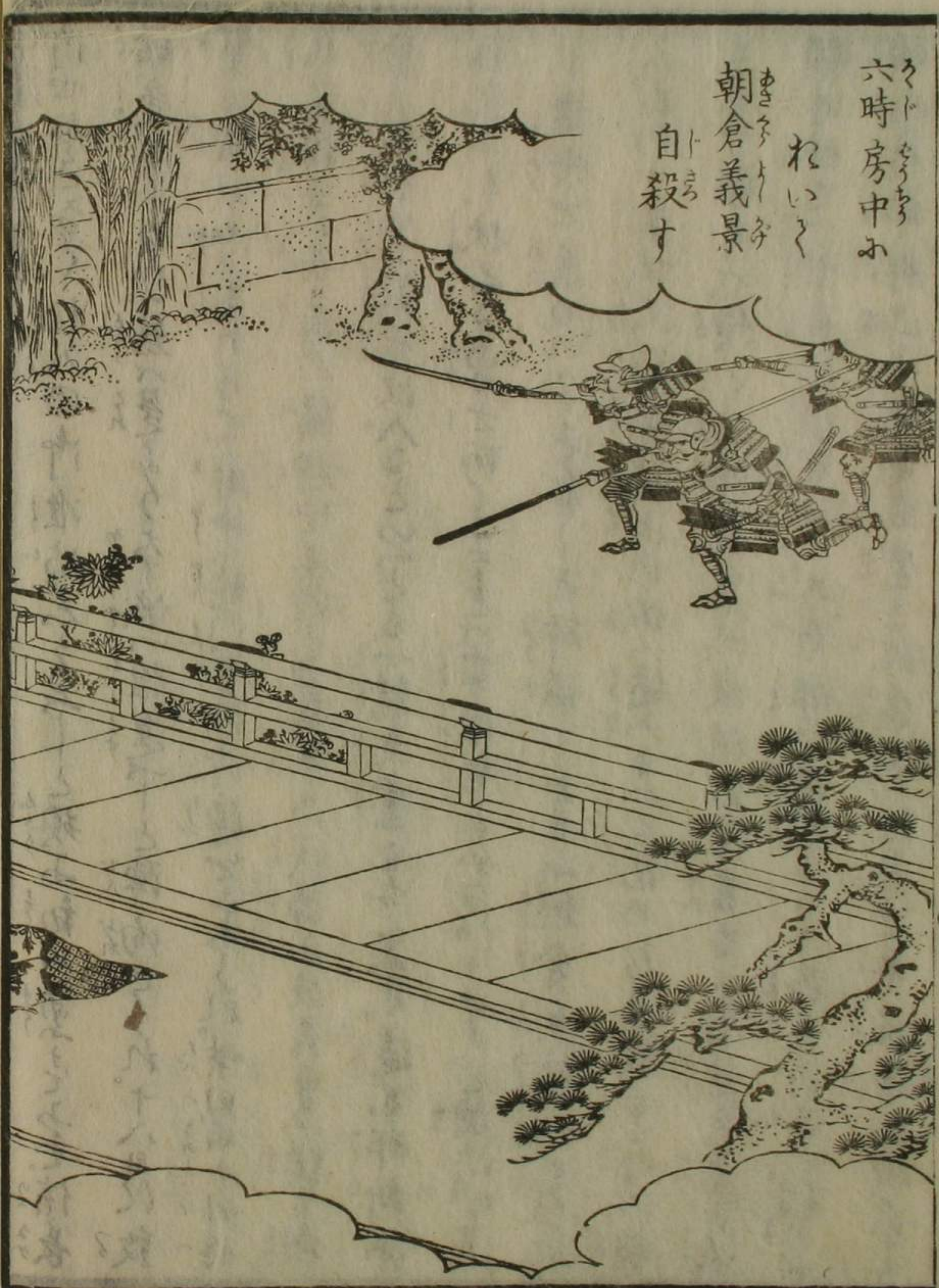
親類巨海小島。龍を呑み是を膏油と養えん。たたり。斯く被
 田。彈正忠信長。其の傍に。恰も被行の傍に。棲に棲て。追撃す。敦賀まで
 追極むる也。其の疾こと旋風の速く。まごも虚隙をうりし。義系
 敦賀にも止りぬ。そのま。幸城一系。若一續く。ふるうて。退入ける
 こそ。はより。信長の力を。勞せ。後軍。成。廻く。敦賀の。撤。小。津。入。あり
 而す。段。提。級。を。前。波。九。弟。を。清。に。見。分。を。せ。一。姓。名。を。記。さ。せ
 是を見を實檢あり。を。ら。是。一。夜。日。通。留。あり。て。人。馬。の。勞。を。補。せ。所
 陣陣の。を。宣。ひ。六。木。下。秀。右。大。小。洞。賜。所。陣。陣。と。是。底。事
 不。及。今。や。既。小。朝。倉。義。系。滅。亡。を。と。す。時。小。して。我。前。一。國。を。神。下。し
 取。登。此。時。節。到。來。せ。り。そ。是。を。是。より。降。呈。せ。り。義。系。再。ひ。敗。を。是。

一 要産の地小防禦の准候。官易政伐事か。一方僅遠威を以て
 政中事舟の水注行が如く。早く札入。玉う。強く進めま。せ
 たる倍長首を。むけ。然ども。小浅井父子あり。先此歌を
 征伐して其後。小攻入。其義。も。所心。うけさせ
 自ら事。既。小。後。井。父子。かく。こ。中。此
 考の。一。月。二。月。當。國。に。所。在。陣。中。休。ま。る。こ。も。氣。煩。わ。り。た
 こ。更。に。申。預。く。義。系。出。陣。の。朝。より。迎。殿。の。事。心。に。お。き。バ。後。場。の
 守。後。も。よく。討。ら。ひ。才。小。一。部。秀。長。に。竹。中。守。長。清。重。治。を。加。副
 野。大。將。等。に。凝。り。せ。り。申。終。く。言。上。り。並。たり。如。之。重。治。ハ
 軍。慮。に。賢。き。傑。さ。る。ば。よ。り。計。ら。ひ。ま。り。ま。り。是。等。の。事。に

所。心。を。さ。り。札。入。の。所。准。候。志。多。く。頻。小。初。め。粟。ま。を。信。長
 諸。受。り。ゆ。ひ。然。ば。是。より。本。城。へ。推。進。す。と。陣。向。せ。り。十八。日。に。敦
 賀。の。城。を。所。立。あり。て。府。中。龍。門。寺。に。所。陣。を。ま。り。柴。田。本。下。丹。羽
 氏。家。稻。系。安。房。の。諸。將。を。り。義。系。の。伐。隊。小。は。久。さ。る。備。も。朝
 倉。義。系。ハ。一。系。召。入。る。と。い。ふ。一。族。老。黨。ま。り。遠。那。所。小
 我。死。す。扶。る。勇。士。何。く。さ。る。バ。卒。城。攻。め。ひ。と。と。團。小。れ。り
 一。諸。將。を。集。め。い。く。ま。を。一。と。評。儀。し。る。小。朝。倉。系。鏡。何。思。ひ。け
 ん。お。の。居。城。大。野。那。勝。山。の。城。へ。退。入。り。と。初。め。たり。義。系。外。に。頼
 之。も。り。け。ま。預。く。山。崎。吉。家。が。最。後。の。諫。言。も。り。忘。る。妻。子。從
 類。連。伴。て。一。系。召。を。退。去。り。大。野。那。勝。山。へ。移。り。其。夜。の。子。れ。割。る。る
 須。大。野。那。勝。山。小。迫。り。凍。雲。ち。に。落。着。使。者。を。平。泉。寺。小。は。り。し



朝倉義景の自決



六時房中
ねい
朝倉義景
自殺す

朝倉義景の自決

十一

て頼むるにすいひ入るるともいつう衆徒等も款となりて義系
 を敵人と討まらるるを恐るるに、恐怖し凍雲に船居ふり、後小
 朝倉譜代の武士、眞任、佐藤、吉原、京國、朝倉、孫三、系、健、備、縁、を
 めく降参志され。朝倉、武部、亞、系、鏡、も、その下へあるの、不、福、系、信
 縁、入、通、一、徹、密、ふ、る、の、う、を、所、出、し、累、鏡、が、方、一、使、士、成、り、門、を、備、義
 系、を、敵、く、出、る、を、恩、賞、莫、大、あ、る、と、よ、し、東、遣、と、く、ふ、り、後
 り、に、舟、の、心、地、し、て、兼、取、の、う、成、返、言、り、同、十、九、日、に、黄、昏、時、凍、雲
 ち、へ、使、者、を、送、り、其、地、へ、往、來、遠、く、し、て、伴、義、便、り、あ、る、と、よ、し、今、宵
 さ、ま、ち、に、山、田、の、庄、に、六、時、房、を、津、柳、あ、る、と、よ、し、し、思、慮、を
 言、上、人、と、前、法、う、う、る、に、よ、り、義、系、の、人、の、こ、ろ、も、は、る、び、さ、り、づ、ぶ
 随、ひ、その、夜、の、うち、に、山、田、の、庄、へ、撤、り、る、を、翌、日、武、部、亞、平、泉、吉

の衆徒と謀り合せ、数百人の衆をりつ。六時坊を推提、因、後、蛇、う
 ち、う、け、ら、び、く、政、法、け、使、者、を、義、系、の、許、へ、送、り、て、津、運、も、り、を
 や、是、ま、で、な、り、急、に、津、肚、め、さ、る、と、ま、う、と、成、義、系、又、不、登、り、備
 一、族、系、鏡、も、信、長、の、子、に、属、せ、り、是、非、も、な、り、次、身、を、り、と、始、て、山
 崎、吉、家、が、最、期、の、休、言、を、思、ひ、と、さ、さ、後、悔、と、れ、ども、今、更、冷、め、く
 系、鏡、が、愛、心、成、罵、り、怒、り、四、十、一、才、小、く、自、害、せ、れ、果、ら、は、さ、る、こ
 と、哀、し、む、れ、悪、む、づ、一、系、鏡、背、肉、を、後、の、義、を、忘、れ、義、系、成、計、て
 自、害、さ、せ、その、首、と、り、降、参、り、府、中、龍、門、の、津、陣、小、島、信
 長、一、登、奉、たり、信、長、即、ち、義、系、の、首、級、を、り、と、系、部、一、の、せ、て、結
 門、小、う、け、ら、は、既、不、敵、前、平、定、と、れ、を、國、人、寺、社、等、と、て、帰、路、に
 信、長、と、か、り、と、系、鏡、不、忠、不、義、を、悪、ま、せ、む、し、凍、雲、と、あ、り、ける、城

秀右保めく密結さうく。今當國一圓小井に入らまうしおがういま
 ど全く静儘ううび。必定再び發動あさる。然るふに川一圓に平治せ
 ばしてありぬまを。其士をあまう當國一圓さうくことありがう。況や其
 士のさうく一圓中の位置整へごまを奉りもうて其儲ふま。是れゆ
 甚亮きことふ此般降来せし衆へ。會是不義のやうなれども。あま
 く殊をゆるし。かゝる恩賞ありと令せ所ら。當國中を配あして隊人
 衆一信せあ。是那般に令ト出づ。渠倅喜んで受領あさんかあ
 ば。征々争ひ起り。同士お發動はるま。自滅を引出まう。其の隊
 兵も。若し別代令く平治あり。根を固め其を強う。去うて當國
 征伐あさる。其をて款ふゆり。倅使あさる。自軍に得せむ。此密計を
 清心に借る。せあふや。いふふと。信長ゆりの飲さ。さふ。それを忘れて

声を發し。神皇不思儀とまを。秘して他ふゆり。さうりけり。やが
 國中をさうく。小政事を作せ。法さ。まの常波吉継へ。最初小政事
 さ。め。さう。又軍功も。ああり。さ。常波の苗字を移さ。せ。桂田攝
 磨と授令分さ。め。信の一字を賜て。信俊とあら。め。さ。一圓の
 ち。後をあつう。一系。若小位。め。富田。孫六。并。府中に。あ。急位。後。若
 ち。は。足。羽。を。領。さ。せ。海。は。大。炊。分。小。金。澤。を。與。つ。若。余。系。鏡。ハ。相。替。ら。ん
 務。山。の。城。小。あ。う。せ。つ。は。お。の。庄。一。圓。の。中。央。あ。れ。む。と。く。舊。例。三。奉。行
 の。格。成。り。つ。く。津。田。九。市。次。并。其。下。助。左。衛。門。明。智。十。三。傳。世。之。人。を。若
 と。く。北。の。庄。に。移。ら。せ。め。頭。め。仕。差。の。津。沙。治。相。調。ひ。同。月。廿。六。日
 を。り。く。再。び。北。川。一。津。淨。陣。あり。虎。津。若。山。小。津。入。り。今。般。載。若。山
 政。取。く。若。余。系。を。滅。し。たり。し。その。勢。ひ。利。刀。の。竹。を。破。る。如。く。阿

たり成りしつ。見入るるに。後井の威亡到るせりと。小谷の備士等恐
 怖して生る心地いさふ。防戦の機勢もあざりたる。重て秀
 吉もろくして。会中一小隊に竹中半兵衛を補佐おさめ。一子余人の
 兵をりし。系極はる。一別入させ。後井又子の居所を捉截。嚴しく
 誅伐させし。久通路自由るべし。て自然と細中の息に著く。こき小
 よつ。終余が。逃散せし。成りあがり。救ひえびして。いさげし。に。成
 空しく。瞬在にたり。然るも。本下。後吉希。誠前より。降るや。いさや。信
 長の命を蒙り。そい。く。自勢を引率して。秀吉長と一隊に。り。小谷
 の城を。下。不見て。瞬息の間。小政。列。い。さ。ひ。を。張。く。と。せ。る。に。そ
 ろ。を。守。る。大。將。ハ。上。田。丸。門。射。大。野。本。去。依。る。五。人。り。し。が。威。田。此。極
 威に。恐。怖。み。し。曲。筋。を。謀。り。て。降。参。る。と。よ。つ。て。信。長。諸。將。に。指。揮。を

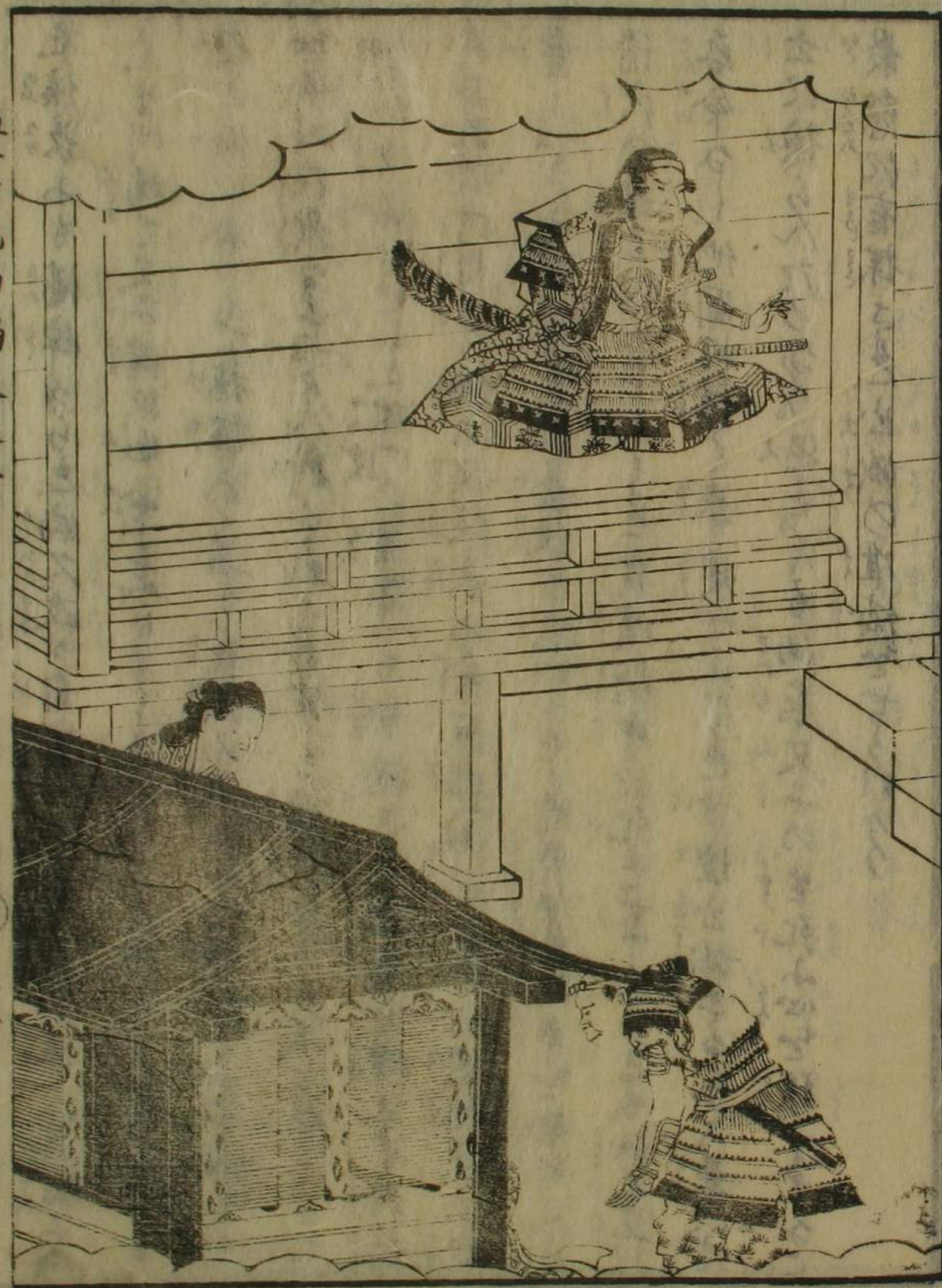
し。小谷。此。城。を。一。晝。夜。休。息。も。せ。び。攻。ま。さ。せ。新。旗。本。の。清。勢。を。ま。で。
 系。極。は。る。取。上。り。し。諸。士。の。陣。を。眼。下。不。見。却。し。清。指。揮。を。死。ま
 かり。たり。然。る。に。後。井。下。野。之。久。政。ハ。約。倉。滅。亡。の。中。に。成。南。今。の。防
 禦。も。何。う。せん。速。に。自。害。し。て。士。卒。此。圍。若。を。救。ふ。べ。し。と。東。野。丸。馬。分
 子。田。丸。女。山。丹。右。衛。門。井。口。鐵。藏。等。皆。に。命。と。て。志。を。く。が。不。ど。防。矢
 射。させ。廿。八。日。申。の。刻。後。野。正。念。以。て。腹。十。文字。小。か。さ。を。死。日。無。意。義
 を。蒙。り。たる。系。極。師。範。松。右。夫。と。い。ふ。忠。信。剛。氣。の。者。あり。ける。が。命。せ
 を。受。く。る。ひ。ぐ。く。今。措。成。り。ま。し。う。せ。其。身。も。共。に。腹。切。り。殉。死。し
 て。を。そ。に。け。る。久。政。自。害。を。さ。く。す。り。も。東。野。子。田。西。山。井。口。或。は。討。死
 或。は。自。殺。さ。る。悉。く。死。矣。たり。夫。より。翌。廿。九。日。ま。ご。曉。中。ぬ。こ。ら。不
 ひ。より。長。政。が。居。所。を。攻。たり。し。久。後。井。但。馬。吉。赤。尾。丸。地。也。根。坂。甚

内本村を断つ。流井、越後、分、同、新、四、部、中、傳、九、部、二、部、同、部、之、
流、傳、い、は、は、も、名、譽、の、勇、士、と、い、は、れ、進、軍、の、大、軍、を、殊、と、も、せ、
の、合、戦、に、未、練、なり、と、失、れ、れ、と、逃、互、に、盤、を、合、ひ、勇、氣、を、
に、く、る、由、急、進、も、殆、政、無、り、て、あ、ま、り、て、ど、く、に、
吾、等、へ、頼、り、て、流、井、の、勇、兵、と、振、返、基、内、と、い、ふ、の、
振、せ、し、流、井、は、流、井、の、戦、場、に、と、視、た、り、
り、ひ、今、へ、流、井、家、滅、亡、の、時、多、ん、なる、流、井、家、
死、せん、が、流、井、を、失、せん、と、最、憾、む、事、を、い、ふ、も、
助、命、を、お、さ、せ、ん、と、い、ふ、も、主、人、長、政、を、救、
議、を、討、ら、ん、と、信、長、に、斯、と、告、る、由、也、大、將、も、
河、内、で、流、井、者、く、て、長、政、の、件、へ、は、ら、れ、
は、武、門、の、中、に、非、あり、義、あり、義、氣、既、小、滅、亡、
年、予、懇、望、し、て、結、親、し、た、を、遠、期、に、及、ぶ、
と、ある、情、を、流、井、を、退、出、あ、り、て、流、井、の、家、
切、心、不、合、送、ら、さ、る、然、か、ど、不、長、政、ハ、所、
若、の、方、に、備、わ、い、一、男、二、女、の、あり、
有、係、に、猛、に、情、お、も、や、ら、く、不、便、お、
懐、不、愜、ま、く、在、ら、る、不、信、長、よ、り、の、
一、人、あ、り、恐、便、の、方、縁、な、り、と、
成、果、る、身、代、猶、棄、玉、を、懸、切、に、
さ、る、に、餘、り、無、り、然、ど、も、頼、り、
め、よ、ら、び、運、命、盡、て、壯、斬、る、
武、門、の、常、道、を、小、智、恨、
人、只、亦、む

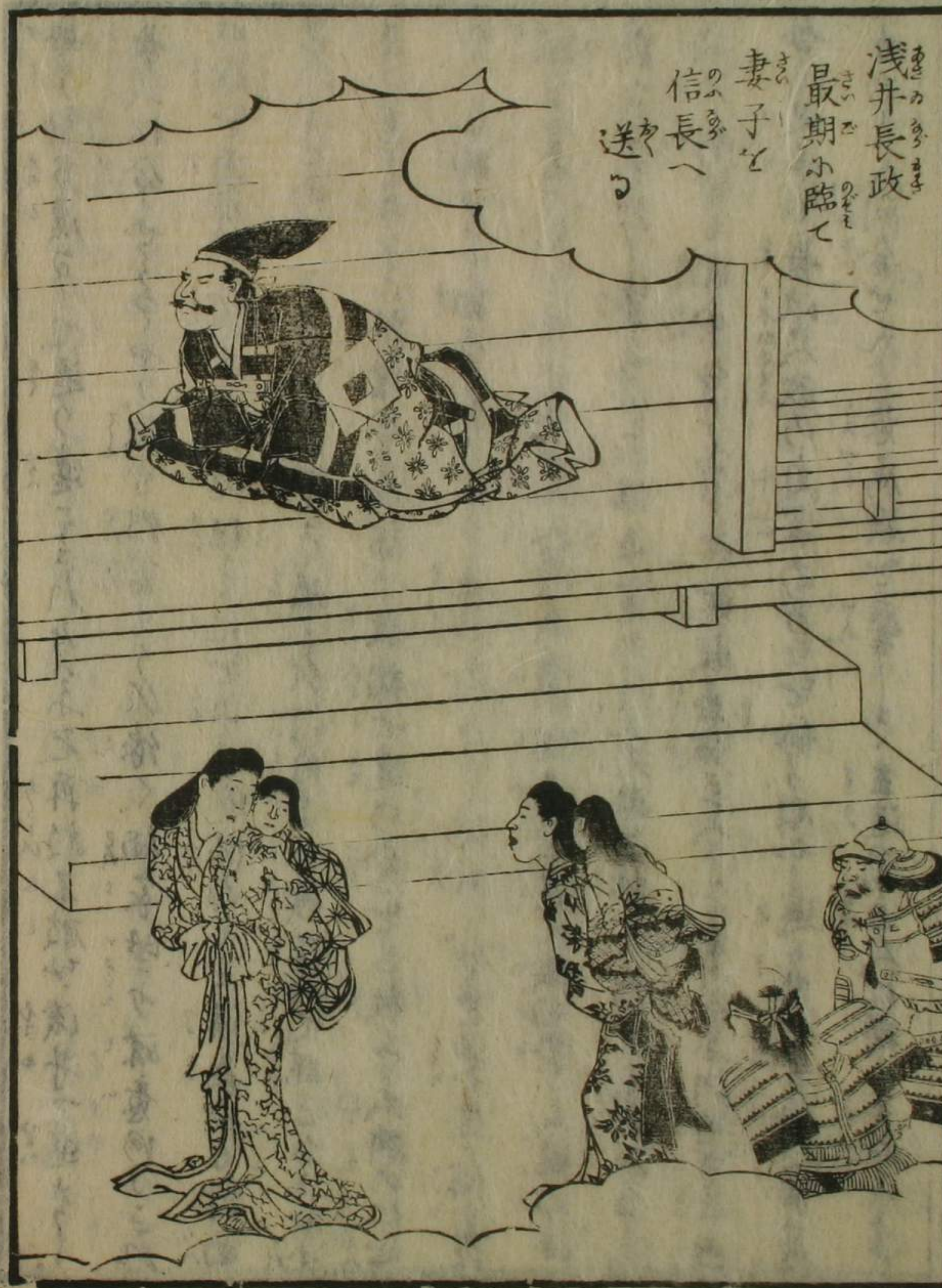
は、武、門、の、中、に、非、あり、義、あり、義、氣、既、小、滅、亡、
年、予、懇、望、し、て、結、親、し、た、を、遠、期、に、及、ぶ、
と、ある、情、を、流、井、を、退、出、あ、り、て、流、井、の、家、
切、心、不、合、送、ら、さ、る、然、か、ど、不、長、政、ハ、所、
若、の、方、に、備、わ、い、一、男、二、女、の、あり、
有、係、に、猛、に、情、お、も、や、ら、く、不、便、お、
懐、不、愜、ま、く、在、ら、る、不、信、長、よ、り、の、
一、人、あ、り、恐、便、の、方、縁、な、り、と、
成、果、る、身、代、猶、棄、玉、を、懸、切、に、
さ、る、に、餘、り、無、り、然、ど、も、頼、り、
め、よ、ら、び、運、命、盡、て、壯、斬、る、
武、門、の、常、道、を、小、智、恨、
人、只、亦、む

一に一事あり。所寄所々飲悦あり。如く我妻ハ素信長の
 妹アリ。現に一男一女を婉り。遠母子偕小遷らんわひと。慈照せく
 又く。技師一也。及支助命の恩お務ねり。足下よりく添補して
 たべ。遠外さうふ不存なりとく。河内を伐返してのち。於信の方の若たれ
 ば。室家悲嘆かたりや。同又同路の死お味ゆんと呻つをさきく。殊く。頼
 らく。支人空しく死する。見事も活る門あり人。楽海をいれとおお
 さい。今の最期試歩て。見事をも宵長も亡候をも。吊ひいとありなる
 にせ。於信の方も子小嫁され。漸信心何けるや。長政執び。後懸
 二河守と。本村小田原を雲衛として。於信母子二人を護りせ。信長此
 一遣一なる。不破河守ハ仗小返りく。長政の鷹城言状せり。信長
 慈び。遠去の河守初りせ人と宣ふ所へ。淡井の方より。危懸本村。於信

母子を守護りて。送り遣たされたるふと。再敢不破を淡井へ遣り
 長政に命せりや。頼も信言まう以像く。桐家些少味意何さる
 べ。派を通はる所なり。早に狂く死せし。退城わくも。信長にも對面
 せし。とありたる哉。長政嘗て保たば。河内守只願休めて。媒とありし小
 尾の事をさる。料理まう以信。信諸士達の命をも。救ふ大將の仁心
 ありと。頻りに勸めたるふより。長政志たうく。沉吟し。二三日あり。信長に
 恨むるも。縁を結ぶ。然るふ。又君義素。信義を建て。織田家と絶好小
 斯なりや。た。事あるは。信長定めて。父久政を恨まうと。思ふあり。
 備久政も。勅命あり。あを。我懐杖出城せし。と。前より。河内守。義素
 可。又子の。長政久政の自害ありし。を知りぬや。遠義の主人の賢慮
 もあり。人。問合せ人と。意属。厥を。應へく。と。返り。主人に。斯と。言状し。



浅井長政
最期小臨て
妻子と
信長へ
送る



を。信長も傷痺から。尚久政が自害を知らず。怒に堪へず再戦を
 し。ま川橋て父子偕に助命を乞ふ。返答せよと再三不破城遣は
 諸士俟に命して指揮ある中。長政出城するに暨ひく。又久政の死
 を所に相残ると云々。斯くも自軍も難危なり人少く後々功
 樂の確信をせよと。攻門の諸隊も命謀さず隊備を横きく。清
 阿る不破河内守の城小投。信長の命成傳へ所父子共に疎略なり。執
 量ふべき旨を重んじた。長政も志めしをて先業継承を助け人と
 備代の諸士にら向ふ。我債款中に死を奉りありとも。汝等必
 存命なり。他國に往く奉度せよ。是方僅出城すること。單に諸
 士に換らんたりあり。返さくも栖家父子の生死ふ心を残さるべき
 最懇に言謀さず出城の確信をせられり。

長政最期後井諸士勇戦馬脇板障卷

半の大小して猛あきとも。死に悲むが由急に力を怯る。羊の少に
 素といへとも。死を怖るが故に盾取に臨んで後さる事あり。
 後井新倉是に比さるふ義素の父國に在たきとも。牛の死地小着が
 像。長政一國を領せざきとも。死をりく後さる事。羊の馬取に
 歩むが像。然る遠駒九月初日。沙井依原も長政諸士救援命あり
 しめん。百騎をりりく出城あり。信長の中陣に到らんとさるる
 ふ。久政が從士絶えり。野川彦久政あり。昨日既小清自害ましく
 たり。と最期の次牙成告るふも長政大不發願あり。諸父上運成
 事極め。清自害ましくなり。是を成藏して我を欺き。敵んとし
 たり。非義の信長款の隊小爲備せられしを。末代までその恥辱あり

遠東切腹をくくを。敵を防拒む。家宰赤尾英作が
宅に並投。遠駒濱井家借代の勇士。濱井但馬守。赤尾英作守。協
坂甚内。本村左衛門次郎。中嶋九郎次郎。同様に濱井。濱井。主君長
政。自害の隙。敵を誘せし。事。遂に。遠東が。戦ふ。長政。赤尾。家
に。お。心。静。に。切。腹。す。果。ら。ま。る。こ。最。惜。け。ま。百。有。餘。人。の
濱井の勇士。今。い。推。す。頼。之。と。今。を。惜。む。こ。心。の。随。小。戦
す。我。死。す。と。い。ひ。喚。り。敵。方。の。勢。中。一。晝。に。紅。投。希。後。方。に。掩
殺。す。勇。力。極。氣。の。け。く。た。け。一。足。さ。う。突。戦。に。然。る。本。下。着。右。岸
の。長。政。出。城。と。祈。り。喜。び。信。長。對。面。あ。る。ふ。お。い。え。後。令。久。政。自。害。の
事。頭。い。る。こ。も。凍。着。め。る。命。さ。せ。ん。と。お。り。ひ。に。豈。料。ん。や。其。期
に。及。び。事。露。顯。し。て。長。政。自。害。す。諸。士。も。我。死。の。不。見。あ。る。成

獲。る。より。諸。ハ。脇。坂。甚。内。も。遠。戦。中。に。何。り。人。を。の。と。我。隊。の。勇。士。に
稟。仰。め。那。般。の。敵。小。値。を。よく。姓名。を。訊。問。活。捉。す。と。指。揮。を。承
け。進。む。本。下。濱。井。の。諸。勇。士。赤。尾。中。嶋。本。村。脇。坂。い。は。ま。も。方。ら。で
我。ひ。つ。る。が。濱。井。但。馬。守。赤。尾。英。作。の。各。人。の。柴。田。池。田。丹。羽。等。が。隊
小。活。捉。す。本。村。左。衛。門。次。郎。の。稲。妻。安。房。が。隊。に。我。死。を。然。る。小。脇。坂。甚
内。源。氏。不。存。の。あ。る。に。より。て。面。の。圍。隊。を。破。り。適。是。出。人。と。さ。る。所。を。
本。下。が。隊。の。勇。士。遠。快。より。服。を。八。方。に。属。て。視。流。し。在。たり。し。が。小。脇。坂。甚
内。の。角。を。額。小。表。せ。一。勇。士。の。面。を。さ。う。て。馳。せ。た。り。我。死。を。う。り。隊。を
こ。を。服。取。り。し。め。と。片。相。福。清。が。後。の。三。個。馬。を。蹴。せ。と。逃。う。け。来。り。諸
の。奉。止。強。小。遠。等。遠。天。公。に。後。面。を。着。ら。ま。い。づ。く。一。通。り。方。の。あ
る。處。に。速。に。姓。字。を。号。す。隊。を。せ。よ。と。呼。り。た。れ。を。甚。内。赤。尾。に。怒。逆

木下の三傑勇
カセ勳せし
脇坂甚内と
活捉



歳さい多た父ちち謀まう殺ころの期き不ふ降くだ之し。所ところ遲おそくも只ただ一ひと個こ。越こ田たの卒しゆ陣じんに推おし卷まき
 る。徳とく氣きもなく。清せい前ぜん不ふ出で。父ちちが介けい錯さくはまのたまきき。思おも入いて頼たのみ
 けるも急いそ。大だい將しやう信しん長ちやうの是こゝ。汝なんぢ所ところしられ。渠かれ少せう年ねんの身み汝なんぢりつ。秋あき中ちゆう
 をも怖おそれざる。勇ゆう悍はんの量りやうを感かん佩はいせし。色いろあり。その潜ひそ然ぜんと落お涙なみだあり。
 又また手てくく。傍わがは氣きなる重おも子こなる。勇ゆうと孝かうの達たつ人ひとなれををにに。信しんせし。得えたらば
 づづとと。志しををくく。稱あや美みなりたまひ。懸かくく。赤あか尾おがが一ひと族しやくなる。多た賀が求もと徳とく
 齋さいを呼よび出でされ。虎こ子し代しろををりて。若わ者しやう育よくせし。虎こ子し代しろはは。諸しよ又また本ほん下げ
 後ご者しやう弟ていの。淺あさ井い家け諸しよ士しの段だん投とう首しゆを。突つ検けんのこと。辨べん了りやうては。坂さか坂さか
 甚おん肉にくをを。清せい前ぜん不ふ伴ばんひ。降くだること。をを言い状じやうし。次つぎ不ふ安あん治ち少せう智ち勇ゆうの量りやう
 を。詳しやう不ふ若わ聞きせし。信しん長ちやうこれこゝ。汝なんぢ所ところしられ。勇ゆう士し一ひと個こたりとと。之これ
 ども。用もちひを。急いそとと。たたること。のこと。本ほん心しん忠ちゆうに傾かたくく。族しやくををいをくく。殺ころさす不ふ

思おもひんや。助すけ命いのちの勿な論ろん切き不ふ随ずひ。よろく。恩おん賞しやうあることと。所ところ懸かの
 命いのちに甚おん肉にくの心しん魂こん不ふ徹てつまることを。最さい希しくく。清せい奉ほうすことし。本ほん下げの隊たい不ふ附ぶ
 属ぞくせり。今いまハ既すで不ふ江かうの地ちも食く患わづらく。織お田た家け不ふ降くだりて。漸かたくく。平へい鎮ちん
 をを。といいえども。猶なほ淺あさ井い家けの諸しよ士しや。河かへへんん。観かん密みつせし。よよ。清せい下げ
 釋しやくありて。本ほん下げ諸しよ將しやう若わ弟てい秀しゆ存ぞん。自みづから汝なんぢ率しゆひて。江かうの地ちを。普ふくく。誓ちか
 索さくせられこと。天あまも香かくく。甲か夕しゆ周しゆうなる。汝なんぢ。三さん兩りやう拒かく不ふ路ろ白はく通つうみし。
 觀かん音おん寺じ。那な也やの。山やま下げを過かること。機あひ會かい也や。越こ田た不ふ聞きゆる。琴ことの音おんあり。その
 以もハ松まつ不ふ通つうへる。風かぜを。所ところ懸かひつもも。よよくく。所ところ不ふ洞どう水すい石せき間ま不ふ吟ぎん。その徳とく
 く。糜び麻ま樹じゆの陰かげを。過か分ぶんて。秋あきを。滿みふこと。ああとと。なな。珠たま不ふ葉はに。澄せい満まんる
 時ときハ九月くわつも。汝なんぢゆること。不ふ他たの心しんに。憂うれひひ。通つうひひ。くく。得えたらば。不ふ洞どうに。武ぶ士しも。割わり
 氣きかること。候こう機きなること。今いま。琴ことの音おんに。清せい。なな。くく。その色いろを。尋たづねねすこと。汝なんぢ。林りん

の中ほど投よける

孫右衛門會情再興系極家屬忠田使節

子房より鶏鳴山とに登りて洞蕭を吹悲歌を唱へて楚の猛勇
八千の勇子も離散して項羽滅棄たりそれとあはれ宵を
とも射る九月の末に。勇氣折く一曲の戦國より新まを
に艶優る陣の不審うらや然を木下並流の琴の音韻に誘れ
つやしく着る者も。最高び。面圍の捕圍あり。塚も阿是と東西
攘まき。昨天ころの風ふむたる。木の葉や鉄子成補ふらん
背門不遠く着て中を。大木被ま。塚の蹟ふ。木下竹交せ編
代せ。牆を掩る老樹。葉も多く結る。夜も枝に袖ま
下。繫きて固小園をえたり。防垣のうらふ。来早に。婦姓のま

て最羨むるが空蟬やうの曲を傳ひ。十二の柱に彈和せり。その風發の
比良よりきく。雅情ハ琵琶湖より流し秀吉をどめ情な秋把駛
率にむる。身傾けて池合。月来日來の戦勇も。秋風
肌を冒さかど。冷る。おもえ。て。流一。草座。听瀧
てぞ在たりしが。秀吉諸士を顧みて。今に。悉く。城回家。帰
属。したま。深山。出。不。是。我。君。の。所。傾。方。僅。這
家。を。不。公。氏。の。栖。窠。も。見。え。中。に。歴。世。せ。一。郷。士。に。や。
誓。素。を。と。け。よ。と。面。圍。不。遠。里。彼。率。に。命。ト。て。通。声。さ。は。を。門
内。倉。率。に。噪。ぎ。起。も。や。款。を。来。り。な。拒。抗。中。つ。と。傳。り。て。
弓。を。銃。を。當。的。々。に。を。憐。胃。害。へ。こ。を。見。て。それ。ら。ち。投。く
活。投。べ。と。激。音。莖。を。秀。吉。制。止。疎。忽。の。奉。止。ま。わ。ら。ぶ。が。孰。倫

の住居にや。預ぬべしと云。一士不指揮なり。大番に呼せたる中。
 おまの横山の城にたり。本下着存并秀吉なるが。當家のまの何
 人あるぞ。と云。聲听て忙しく。まめれたる一個壯士早奴に命とて
 門戸城固を。鎮くと云出く。城中の事由忠實言を云。野武
 士。監城の類ありんと。防禦の確依をせし。條只願寛宥せしむる
 處。まのくこれへと。清くくろふを。秀吉自勢を門外不休を加
 藤原の臣家。四輩延へ。引導にむくれ。後堂不通り。設けしむ
 座に推居り。初対面の穉儀互不畢。まの。本下主を。熟く相に。
 年庚ハ稍二十が。刺を口。まの。も。誠。相好に。まの。色白。杖長く。
 猛く。されとも。威を。含。尋常。骨法。秀吉。まの。
 り。賤。まの。も。棄。こと。まの。大將。由。まの。態。懇。に。命。許。し

△清井軍記
 法海を告
 には。系。松。成
 存。まの。まの
 とあり。つと
 こと。是。成。又
 家。潘。ふ。ハ
 長。つ。まの。まの
 と。何。り。まの。まの
 者。吉。も。秀。吉
 云。別。人。の。心
 佛。の。心。を。秀
 せ。り。つ。つ。法
 二。中。の。状

いりある人ぞ。同仇をなれ。彼者も亦恭しく。謂。後。々。つ。子
 へ。原。當。國。の。も。獲。依。本。の。一。族。親。音。寺。城。まの。たり。京。極。長。花。吉
 高。右。の。子。息。高。次。と。い。つ。者。なり。旗。本。なり。る。淺。井。が。為。ふ。不。傾。を
 痛。く。狭。め。ら。まの。又。長。花。吉。を。没。して。後。ハ。俺。們。兄。弟。之。個。あ。まの。幼
 ふ。して。活。計。が。く。零。落。な。り。て。遠。小。用。居。し。内。運。を。獲。こ。と。十。四。年
 公。道。武。術。を。鍊。磨。し。て。所。志。へ。屈。曲。せ。ば。と。い。ども。大。館。た。る。六。前。家
 格。の。像。く。に。衰。微。し。け。ま。バ。其。門。系。た。る。つ。が。倫。輩。弟。を。達。家。成
 興。さん。こと。変。て。も。得。が。さ。り。附。人。ぬ。る。と。坐。ふ。思。ひ。諦。り。て。只。願
 天。の。附。に。順。ひ。世。の。盛。衰。を。見。聞。さ。る。小。朝。倉。こ。と。り。大。家。まの。運
 盡。ぬ。まの。露。と。共。ふ。消。る。物。の。あ。る。まの。を。栖。家。が。倫。輩。何。れ。實
 久。零。落。用。居。の。身。に。安。く。て。接。戦。疲。勞。の。苦。悩。も。なく。性。成。座。臥



京極の妹女
 琴の韻を
 藤吉郎
 秀吉と
 暮看
 せむ



安部あり。然りしり。苟も。武門に生ずのそなれば。戦國の世。あ
 るに。屈辱して。年浅。色に。事。業。弱。未。練。の。所。ある。色。は。い。か。ふ。も。な
 して。志。を。遂。果。せ。う。い。か。怖。い。信。長。の。清。前。より。一。本。下。殿。の。推
 挙。に。憑。く。俺。們。兄。弟。の。家。名。成。興。に。端。と。も。な。さ。せ。玉。え。る。は。深。恩
 又。母。に。も。猪。多。り。と。愛。を。落。る。始。終。を。門。譚。誠。心。を。り。く。信。頼。を。ら
 ぶ。七。秀。吉。を。熟。く。これ。を。所。く。備。へ。系。極。の。人。と。な。る。う。数。箇。年。沉。淪
 一。の。ふ。こ。と。さ。そ。か。一。幸。幼。に。く。あり。は。く。ん。既。ふ。淺。井。家。滅。亡。して。
 江。州。總。く。信。長。の。女。小。掌。と。なる。時。こ。そ。孝。な。れ。系。極。家。再。興。の
 方便。を。た。ふ。も。あ。ら。ざる。ゆ。り。近。日。信。長。當。國。の。政。事。を。命。出。さ。る。る
 べ。其。時。の。後。一。く。披。露。し。ま。う。さん。兄。弟。衆。の。い。づ。く。に。や。と。い。ふ
 高。次。膜。汗。く。合。者。高。知。り。び。に。妹。は。歳。十。六。歳。有。り。を。い。ふ。こ。と。

色。と。對。面。さ。ま。る。に。秀。吉。を。妹。と。見。く。色。に。若。顔。さ。か。り。花。奴。柳。態
 ろ。色。に。對。して。年。色。を。れ。た。楊。氏。李。氏。た。も。鏡。を。抱。ち。は。ま。若。小。町。も
 麻。衣。掩。ふ。い。と。も。愛。れる。娘。を。り。し。る。水。火。に。も。心。動。せ。さ。る。大。丈。夫。の
 秀。吉。も。忽。地。魂。氣。を。奪。え。れ。く。若。悪。も。忘。れ。く。惘。然。たり。娘。く。有
 て。羞。辱。最。前。琴。を。彈。せ。し。君。の。這。婦。人。お。さ。り。は。る。や。と。佩。絲
 々。の。由。糸。高。次。を。へ。う。い。う。に。も。賢。察。し。の。ふ。こ。と。と。い。ふ。小。秀。吉。金
 持。く。惡。慕。の。か。り。ひ。を。傳。へ。せ。し。か。智。徳。不。富。た。る。秀。吉。を。れ。た。這。婦
 人。を。り。く。ま。に。納。ん。ふ。い。高。次。を。知。を。推。挙。し。て。是。身。さ。ま。る。に。い。ふ。こ
 と。決。意。し。肩。ふ。あ。ら。さ。る。こ。と。も。乃。郎。深。意。ま。う。は。う。の。舊。領。安。達。相
 遠。あ。る。事。一。夜。日。夜。津。は。あ。色。か。り。く。は。右。左。右。ま。う。さん。は。と。い。く。契
 約。を。か。え。り。我。も。深。ゆ。を。秀。吉。も。別。辭。を。報。く。帰。り。々。る。然。か。と

小信長へ江小惣と平定一々是を政事改命属さるる事小長山の
 一城子。浅井の舊領之郡。浅井修善寺の多寡十二万石の地を以て。本下
 秀右衛門に授賜せらる。秀吉冥加の如く伏拝謝す。多奉の功勞を顯
 したる。是に依り先領合され。二十万餘石ありて。柴田佐久間も及
 をさる。大領をこそ昇進する。六の駒本下領てより。懐胎より手槍が
 何良弟合るると言状せらる。江小の地へ割草。系極を家以舊領小
 一て。國民介小を連くと先主の恩化を返奉志ぬ。系極の家を
 再興あり。仁義を施し。ひる。江小の地へ。静穏ありて。民の心
 も安寧あり。人。便系極を長子息。備是郡に藝居しければ。
 吟に徳を施さ。彼家を達せらる。國民共小安康からんと。稟上る
 浅信長兄才小對面ありて。厚に懇伺をうけ。是を以て。江小の地を賜へ

△系極の
 家共する
 存と相續
 以て傳は
 候とて
 系極の
 祖とす

ら。後年江小と津と。家を達さむ。ひる。兄才多奉の慈眉を。用ひ。世
 に出たり。しも。單小。是。本下。度。の。懇。切。り。と。て。淺。め。り。熱。文。せ。り。れ。り。
 是。の。さ。り。江。小。國民。近。系。極。再。興。を。大。小。欽。び。秀。右。の。仁。心。を。感。極。し。
 是。より。江。北。以。系。小。信。一。々。平。安。豊。樂。を。極。め。たり。秀。右。遠。近。に。名。次
 々。妹。を。懇。望。あり。て。小。若。小。逆。帰。し。秀。右。弟。の。服。妻。と。し。羅。忌。又。久。保
 り。ひ。り。り。け。り。後。小。若。の。九。段。と。終。一。人。の。時。を。得。て。六。石。行。意。く。意。の。如。く
 謀。る。所。圖。不。當。り。く。自。己。に。義。の。名。次。得。る。の。さ。り。情。念。を。遂。て。圖
 を。富。し。め。國民。の。心。和。轉。す。領。地。中。ひ。く。平。鎮。を。事。こ。是。天。慈。の
 智。と。り。應。り。ん。欽。然。バ。信。長。其。余。の。人。を。恩。賞。せ。よ。と。命。出。され。改。回
 那。の。分。地。ふ。お。い。く。六。万。石。を。堀。次。弟。小。賜。り。志。賀。郡。子。二。万。二
 千。石。を。行。用。淺。路。弟。小。賜。り。是。を。備。郡。六。万。石。を。新。莊。の。城。に。屬。ら

△新庄
 三町とす
 豊中庄を

きて。磯野丹波も不獲揚り。虎津前山の城は破却せし期まで残
 る隙も有り。國中の政通相整ひ。同年九月六日せり。諸將を率
 いて魏と然と波阜へ選軍まじり。浩りたる福子藏田家の
 武威。近江賊若いもさうり。近國に歌さる輩の徒の一個もあ
 らず。威風凜凜たり。幕下に属する者も揚て羨る
 小いと自り。彦に播磨姫路の城主小寺後長清政藏といふ者あり
 奥平親之の後胤あり。村と源氏赤松家の諸流あり。武勇に長
 ト一族旗下もあまう。河邊とも。中國ふり毛利有田國は之好長る
 我部あり。波前も浮田直家あり。四方も是れ大敵ある也。小寺
 政藏一家あり。出頭する事あり。されを可也。武功の家は勤
 力。後の天過を抜さんと一族諸士を呼集り。今國々小智勇あり

將士修し。蜂起さる。武將とさる。さき量の人。誰ふや。あ
 ら。と訊ねる。小諸士も。詞を同じ。當時目前の豪家といふ。中
 國にある毛利なり。吉川の智勇。小早川の仁徳。よく輝光を補弼し
 て。四方不敵の名將なり。此も勲力して。信義を竭さば。いさか
 不とも。毛利の援接あり。のを怖る。不らる。といふ。誠同席に列
 坐たる。某田官。某源孝高。宇多源氏。母の氏族。小寺源三。恒義。孝高。六代の源亮
 七代。某田下野。重隆の男。誠隆。といふ者あり。智勇。明敏。にして。軍。急。小
 賢。兵。書。に。達。せ。し。勇。猛。を。双。の。武。士。なり。それの。さ。ら。に。女。利
 して。多。言。る。に。慎。深。さ。人。なる。進。出。て。粟。く。る。中。う。諸。士。の。美。見
 利。あり。といふ。も。熟。く。思。慮。を。廻。ら。せ。し。進。日。天下。に。播。を。執。つ。こ。の
 波。阜。の。信。長。も。人。毛利。家の。武威。は。な。れ。ども。い。さ。か。織。田。に。及。び。

久や。信長へ尾州の三郡より起りて。十年満たぬ其の中に諸國の大
 勢を獲ぬ。公方を捕佐して上洛す。又畿内を悉く平定す。向ふ和
 公ありて。務。和や近來是利家の権威中や。衰々天下に武將
 たるに。信長の如く。是をある胸へ。發く織田家小治
 撥して。信義を通す。最可全なり。と盡理の異見。不
 政職歸後。足下の解理。ここに。儲り。登く織田家へ。使者。政達
 也。勅力の卦を通す。然る。不遠遭の使者。るもの。別人。小治。保
 ふ。是下。是下。方。乞。波。阜。一。報。記。信長。に。心。腹。を。言。納。ら。る。且。ハ。又
 織田家の諸士の。弓矢量をも。窺ひ。味。ま。言。探。す。和。地。小。寺。の
 苗字を。讓。り。天。正。元。年。六。月。下。旬。播。磨。州。赤。松。を。發。是。下。上。方
 當て。急。が。せ。たり。然る。不。其。須。公。方。家。小。治。若。び。赤。野。心。の。事。ありて

京都。發。初。り。々。々。也。官。長。清。也。池。小。江。加。多。る。小。治。の。城。江。州。一。國。の。要。地。也。
 小。報。して。本。下。藤。右。郎。に。對。面。一。政。職。の。意。報。を。傳。ふ。信。長。織。田。家。一。勅
 力の。有。を。信。る。秀。右。將。り。々。々。飲。悅。也。若。兵。の。あり。し。け。樂。意。一
 々。後。波。阜。に。誘。ひ。仔細。に。信。長。一。言。狀。せ。し。久。ま。か。そ。ち。孝。多。に。對
 面。あり。赤。野。の。令。せ。ありて。適。當。ある。處。たり。な。せ。バ。藤。右。將。と。一。齊
 小。小。治。の。城。に。歸。り。日。夜。軍。治。な。り。々。々。果。回。が。智。計。拔。群。を
 信。義。の。心。原。り。々。れ。を。秀。右。密。に。これ。を。飲。び。西。國。征。伐。の。案。内
 者。に。こ。も。究。竟。の。人。あり。と。隨。分。地。走。一。厚。信。以。九。右。小。公。方。家。の
 藩。着。ありて。淺。井。朝。倉。も。滅。亡。し。々。れ。バ。官。長。清。も。さ。ら。に。政。事。軍
 法。皆。悉。く。見。聞。し。つ。肝。小。徹。して。威。服。す。新。て。い。い。く。信。長。こ。も
 天下。の。武。將。る。ら。ぬ。と。心。を。變。り。て。あり。々。る。う。ち。小。信。長。より。禮。を。揚。い

りけきバ。むさでめのとう頂戴して。援川沂省一歸り々々。是會本下の
沐慮に之。倭山家の武威を中国まで志めさんたれ料理り々々。

繪本豊臣勲功記四編卷之五終

